

自動車分野における職業能力開発体系の整備

【 調査研究概要 】

分野：職業能力開発の実践に必要な調査研究

担当室名：高度訓練開発室

1. はじめに

鳥取県は、職業能力開発総合大学校の一部機能移転を契機として、その調査・研究成果やノウハウの活用により、成長分野の高度技能・技術の訓練・開発拠点を形成し、求められる高度技能・技術人材の育成・確保を進めると同時に、成長分野の企業集積や県内企業に対する海外需要獲得・生産性向上に係る支援等を一体的に推進し、県産業構造の変革を通じた経済の再生と成長を目指す。

県内の企業や関係機関と共同により得られる本件の成果、知見により、製造業の現場ニーズに即した実効的な職業能力開発体系の整備および職業訓練に係る教材開発を効率的に進め、我が国の産業を支える高度産業人材の育成に資することを旨とする。

平成30年度から3年をかけて、自動車部品・附属品製造業の職業能力開発体系を整備する。

2. スケジュール

職業能力開発体系の整備および職業訓練に係る教材開発を効率的に進めるための日程の概要を以下に示す。

- 1年目：在職者訓練開発室との連携による職業能力の体系の整備
H29年度に整備した『「職業能力の体系」の整備に関するマニュアル(暫定版)』(以下、マニュアルとする。)を活用し、マニュアルの検証・精査も併せて実施
- 2年目：在職者訓練開発室との連携による職業訓練の体系の整備および新たな訓練コースの開発・実施
- 3年目：訓練実施のための教材の開発

3. 職業能力の体系の整備について

職業能力開発体系は中小企業等における人材育成に資するためのものであるため、事業主団体等の協力を得ながら、業界における職務遂行に必要な職業能力を体系的に整備する必要がある。そこで、職業能力の体系の整備に関する「調査研究委員会」及び「調査研究作業部会」(以下、「委員会」、「作業部会」という。)を設置した。

自動車部品・附属品製造業は多岐に渡る製造業であるため、対象を機械部品と電装品に絞り整

備することとした。その名称については、以下のとおりである。

機械部品：自動車機械部品製造業

電装品：自動車電装品製造業

委員会には、今年度の職業能力の体系の整備について協力を依頼した一般社団法人日本自動車部品工業会(以下、「部工会」という。)の技術担当顧問と上記の製造業から1名ずつ部工会に推薦をしていただいた。また鳥取県内企業から5名の方に委員として参加していただいた。

作業部会は、機構内の職業訓練施設の課長、職業訓練指導員、職業能力開発総合大学校の教員で構成されている。

3-1 対象とする企業規模、品目

職業能力の体系を整備するにあたって、整備対象とした業種の中から対象とする企業規模や品目を選定することから始めた。

対象を選定するに際して、各種統計データ^{[1][2][3]}を参照した。

各種部品の項目に着目すると、99人以下の事業所が7割ほど占めていること、駆動・伝動及び操縦部品のシェアが5割近く占めていること、構成部品となるシャフトやギアなどの製造工程から、自動車機械部品製造業の職業能力の体系の整備に資することが期待できることから以下のように選定した。

企業規模：99人以下の事業所

対象製品：トランスミッション関係の部品

自動車電装品製造業の企業規模について、各種統計データで『電装品』に関連する用語を確認することができないため、暫定措置として、自動車機械部品製造業と同様に99人以下の事業所を対象とする。

品目については、ワイヤーハーネスの出荷額が対象品目の中で群を抜いている。ワイヤーハーネスは電装品に関係する機器をつなぐ役割の部品となるため、電装品全体に関連する項目を抽出できることが期待されることから、電装品製造業の職業能力の体系の整備に適していると考えられることから、以下のように選定した。

企業規模：99人以下の事業所
対象製品：ワイヤーハーネス

3-2 業務の流れ

委員会及び作業部会において、業務の流れを検討した結果、自動車部分品・附属品製造業における直接的な職務を時系列に並べたものを「業務の流れ図」として、図1に示す。なお、業務の流れ図は自動車機械部品製造業、自動車電装品製造業の共通事項として整備した。

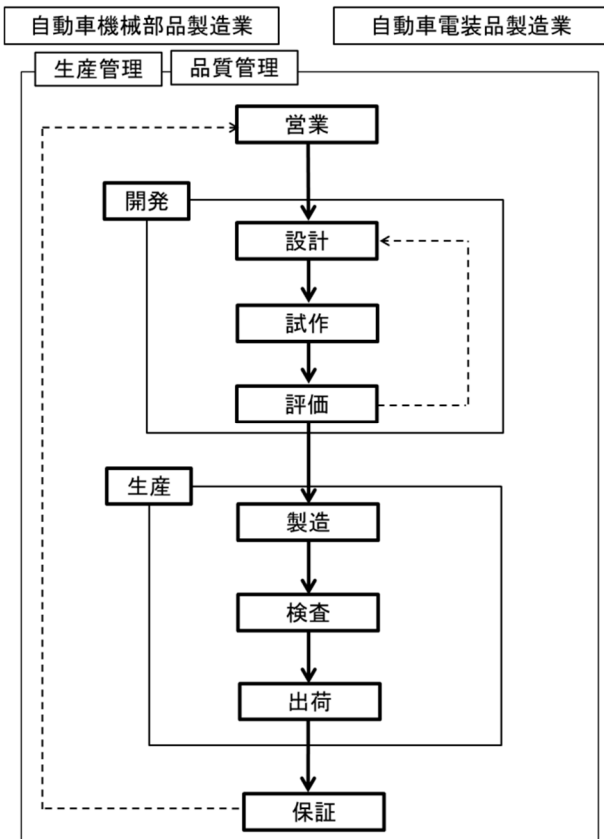


図1 業務の流れ図

流れ図における重要事項として、現行の製造業では、『製品のトレーサビリティ』が注目されていることから、「生産管理」「品質管理」が製造業全体を網羅するように描いていることを挙げる。

3-3 職務構成、職務分析

業務の流れ図を参考にして、企業の組織とその構成要素である職務構成と、職業に従事するために必要な職業能力を明確にし、その能力を段階的かつ体系的に整理する職務分析を行った。一例として、自動車機械部品製造業の職務構成表を図2に示す。

部門	職務
経営	経営
監査	監査
事務・管理	総務
	人事
	労務
	法務
	経理
営業	営業管理
	営業活動
	技術営業
生産管理	外部環境管理
	資材調達
	工程管理
品質	品質保証・品質管理
	製品設計
	試作
開発	評価
	設備保守・機器管理
	作業環境管理
	生産技術
	製造
生産	検査
	出荷
	保証

図2 職務構成表

職務構成、職務分析における重要事項として、「部門」では、『監査』『品質』を独立した項目としていること、実際に製造を担当する『生産』と製造の状況を管理する『生産管理』を分離したこと、「職務」では、担当である『製造』と製造ラインの各種機械のプログラムや作業手順やマニュアルなどを管理する『生産技術』を分離したことを挙げる。

4. まとめ

今年度は自動車機械部品製造業、自動車電装品製造業の職業能力の体系を整備した。次年度は、引き続き鳥取県内企業の協力を得ながら、鳥取支部 鳥取職業能力開発促進センターと連携しつつ、整備した職業能力の体系の検証と職業訓練の体系の整備を進め、人材育成の方法を検討していくこととなる。

参考文献

- [1] 平成26年工業統計表「企業統計編」, 経済産業省, 平成28年8月5日公表
- [2] 平成26年工業統計表「品目編」データ, 経済産業省, 平成28年3月25日公表
- [3] 日本自動車部品産業の実態 2016年版, 株式会社アイアールシー, 2016年8月7日